

## アンネの日記を読んで

二年 佐藤成子（昭和三九年度）

世界のたくさんの有名人の中で私が一番好きで身近に感じられる少女、それが「アンネの日記」のアンネ・フランクです。

私は彼女の素直さと快活さが好きです。もちろん私はアンネ・フランクを砂彼女の日記によってしか知りません。しかし、彼女の人は充分日記に表われていると思います。アンネはユダヤ人でした。ユダヤ人であるがために多くの迫害を受けねばなりません。アンネ一家は迫害を逃れるために、かくれ家生活を送りましたが、今の世の中では考えられないことです。しかし、そんな時でも、アンネは明るさを失いませんでした。いつも暗い隠れ家の人々の生活に笑いをふりまくのはアンネでした。私はこんなアンネが大好きです。でも世界の人は人種によって差別をするのでしよう。アメリカの黒人問題にしろそうです。また、なぜ戦争をする必要があるのでしょうか。アンネたち多くのユダヤ人らの死だつて戦争の生んだ大きな悲劇の一つです。私たちは彼らの死をむだにしてはいけないと思います。

アンネは心の友を求めて、「キティ」への日記をつけ始めました。私たちにすればただ一枚の紙にすぎない日記もアンネにとっては心の通じる大切な友だったのです。

こんなところにもアンネの純真さが表われていると思います。そして彼女がその時キティへの悩みをうちあけられたことは、隠れ家での陰気な生活において大きなプラスになったのではないのでしょうか。なぜなら隠れ家でおこるいろいろな息の詰まるような事件の一つ一つの中にあつて、もし日記をつけていなかったら、

彼女もほかの住人たち同様いららして物事を客観的に見るということを忘れてしまったでしようから。

もし今アンネが生きていたら彼女はいくつになるでしよう。もう四十才になつていてもいいかもしれません。日記の中のアンネは永久に十三、四才の美しい朗らかな、純真な少女として、後世の多くの少女たちに愛されるでしよう。わずかに十五才までしかない生命ではありませんが、それでもほかの多くの不幸なユダヤ人少女たちの中では幸福な方だったかもしれない。なぜなら後の世の人達のためになるすばらしい遺産を残し、多くの人々にいつまでも愛される少女になったのです。ナチス側の人から隠れ家を発見され、収容所へ連れて行かれてからのアンネの態度は、いつも冷静で同じ収容所へ入つてゐるユダヤ人たちの世話もよくやりみんなに好かれたとか……。

アンネの日記が私の心を深くとらえたのは「生きる」ということです。生きようとする罪もない生命を無理に押える権利がない誰にあるとこのうのでしよう。何て恐ろしいことをナチスはやったものでしようね。

ああ、戦争がもう一年早く終わってくれたら・そうしたらアンネだつて今ごろ元気ないつもの明るい笑顔を私達に見せてくれるでしように。私は戦争をうらみませす。とともに平和なこの時代に生まれてきたことを感謝せずにはいられませす。

快活で美しく、みんなに好かれたアンネ・フランクは、すばらしい少女です。私はこのすばらしい世界の少女の永久の友に、もう一步でも近づきたいと思ひます。そして多くの罪もない人々の生命をうばい、アンネを不幸におとし入れたにくりしい戦争が未来の歴史の上にはもう二度と出現しないようにと祈らずにはいられませす。

アンネさん、どうぞ神のみもとで安らかに眠り下さい。